


**誰もが読書を楽しめる
環境づくりについて**

池田 和子



野生動物対策について

齋藤 忠芳

問 市立図書館のししブック蔵書状況と今後の取組は。

答 昨年2月に1冊購入。今後、拡大文字図書と共に読みやすい図書資料をそろえていきたい。

問 ししブックの周知について見解は。

答 12月3日から9日までの障がい者週間にあわせ、ししブックを数冊購入して展示を行い周知していく。

問 ししブックコーナーを設置する考えは。

答 設置の予定はない



が、今後、ししブック蔵書が増えた際は、内容などに合わせて、わかりやすい配置を心がけていく。

学校現場での心肺蘇生教育について

問 AEDを屋外に設置する考えは。

答 防水、防塵、いたずら防止等、管理上の難しさがあり現在のところ計画はしていない。職員玄関付近に設置するよう工夫をし、コンビニや公民館など学校付近のAED設置場所の案内も進めていく。

問 教職員へのAED講習実施状況は。

答 AEDの使用法を含む心肺蘇生法の研修会を校内で実施。救命講習会の指導者となることができる応急手当普及員の育成を進めており、昨年度、一昨年度と8名ずつの教員が受講。

防災対策の推進について

問 公共施設のエレベーターに防災椅子を設置することにについて、見解は。

答 防災椅子は、簡易トイレや飲料水などの防災用品が収納されており、非常時には大変有効なものである。今後、設置に向け検討する必要があると考えている。

災害対応型自動販売機について

問 設置状況は。

答 市役所、各公民館など26機設置。災害時には、販売機内の在庫品を無償で提供、飲料水の優先的な供給を行うことになっている。

問 ハザードマップへ設置場所を表記する考えは。

答 平成27年にハザードマップを作成しているが、今後、マップを更新する際には表記を検討したいと考えている。

問 環境及び農業への被害の実態は。

答 アライグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカの被害報告がある。生活環境被害については、アライグマによる被害報告が多く、住宅の庭や家庭菜園の被害、また住宅の屋根裏等に住みついてしまい糞尿等に汚損された家屋被害等がある。イノシシによる生垣の損壊被害も見受けられる。農作物被害については、イノシシの被害が多数あり、昨年度中、職員が確認した被害面積は1万2千660㎡あり、実際にはもっと多くの被害があると考えている。

問 野生動物被害対策は。

答 鳥獣被害を防ぐ有効な方法は、捕獲と防除である。捕獲については、ハクビシン、アライグマなど小型の鳥獣に対し、

被害のあった方からの捕獲依頼に基づき、箱わなの貸出しと設置を行っている。また、大型の鳥獣に対しては、日高猟友会へ有害鳥獣捕獲の業務を委託し、わなによる捕獲と銃器による捕獲を実施している。昨年度の捕獲実績は、イノシシ21頭、ニホンジカ11頭、ハクビシン27頭、アライグマ12頭の計186頭となっている。防除については、防護柵・電気柵の設置が有効である。市では、昨年度から電気柵の購入費用に対して補助金を新設し

て、効果をあげている。**山林保全対策を！**

問 環境保全面から山林保全対策をどう考えるか。

答 市では毎年埼玉県の彩の国みどりの基金を活用して、市内の森林保全を行っている。国としても森林保全に関する仕組みが大きく変わる時期である。具体的には、平成31年度税制改正において、森林環境税及び森林環境譲与税が創設される。国税であり、国民一人年額千円を個人住民税と併せて平成36年度より徴収される予定である。森林環境譲与税は、法令上用途が定められており、市が行う間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発、また県の実施する森林整備等の費用に充てなければならぬとされている。



箱わなによる対策